

■化学療法委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	副委員	良元 和久 (外科)
委 員	井上 結貴 (産婦人科)	委 員	稲葉 雄三 (泌尿器科)
委 員	去川 友音 (消化器内科)	委 員	藤本 祥太 (呼吸器内科)
委 員	川口 敬 (薬剤科)	委 員	木元 慎一郎 (薬剤科)
委 員	小俣 朋子 (栄養科)	委 員	富永 美保 (外来ABC)
委 員	村松 由貴子 (がん化学療法認定看護師)	委 員	諸星 宮子 (3B病棟)
委 員	伊賀 尚美 (5A病棟)	委 員	古藤 美津子 (5B病棟)
委 員	佐野 好美 (6A病棟)	委 員	藤田 由紀子 (6B病棟)
事務局	小泉 幸紀 (医事課)	事務局	川本 悦子 (医事課)

2 開催回数

12回 (毎月1回、第4火曜日) 定期開催 11回 臨時開催 1回

3 令和7年度の取組実績

年間を通して新規レジメンの検討・承認、通院治療室の運用についての検討を行った。

新規レジメンは、今年度19種類の検討・承認を行った。レジメン集は43件提出した。

レジメン登録薬剤の皮下注射、外科外来におけるフェスゴ初回投与や泌尿器科病棟テラルビシン膀胱内注入の運用手順など化学療法マニュアルの見直しを行った。

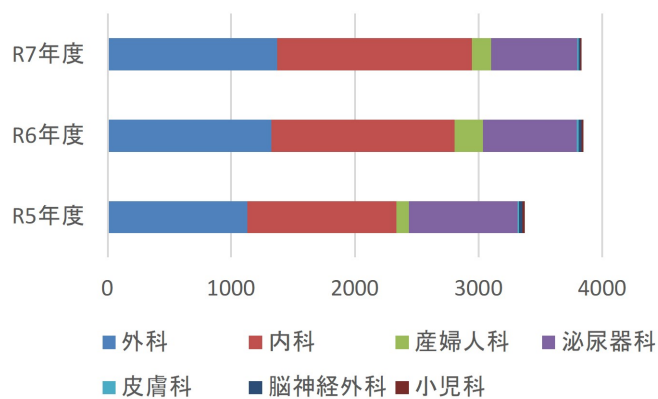
また、通院治療室、薬剤科、病棟、栄養科などの課題等の共有・検討を行った。

4 令和8年度の課題

レジメン審査とレジメン集の整備、ホームページへのレジメン一覧の掲載、カンサ一ボードを含む他施設とのウェブ等による連携を強化し、副作用対策や認定看護師による指導管理や管理栄養士による栄養指導介入を検討課題とする。

科別レジメン適用件数

診療科	R5年度	R6年度	R7年度
外科	1128	1324	1370
内科	1208	1482	1579
産婦人科	99	230	154
泌尿器科	881	761	695
皮膚科	14	14	12
眼科	0	0	0
脳神経外科	26	24	12
小児科	17	14	13
総数	3,373	3,849	3,835



(文責 良元 和久)

■診療材料検討委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	阪本 宏志（循環器内科部長）	副委員長	高橋 克典（病院総務課）
委員	山崎 永幹（糖尿病・内分泌・血液内科）	委員	佐々木 貴充（産婦人科）
委員	坪井 一人（外科）	委員	笹本 翔平（整形外科）
委員	武内 信親（歯科口腔外科）	委員	仲尾次 優輝（耳鼻咽喉科）
委員	望月 保子（薬剤科）	委員	岡田 和教（中央放射線科）
委員	杉山 弘一（臨床工学科）	委員	中村 三千代（副看護部長）
委員	藤田 久美子（手術室）	委員	渡邊 葉子（副看護部長）
委員	勝又 陸（感染対策室）	委員	望月 敦子（外来D）
委員	宮城島 基生（医事課）	委員	大塚 史栞（病院経営課）
委員	佐野 和美（病院総務課）	事務局	清 莉帆（病院総務課）

2 開催回数

12 回（毎月 1 回、第 2 月曜日）

3 令和 7 年度の実績

① 新規診療材料等の採択に関する検討

・新規採用 73 件

② SPD 委託業者による NHA 共同購入品への切り替え等に伴う支出削減額

・ 60,635 千円

4 令和 8 年度の課題

引続き、新規採用診療材料等の適正かつ効率的な購入の推進を図っていく。

（文責 阪本 宏志）

■ ICU運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	阪本 宏志（循環器内科）	副委員長	野田 靖人（脳神経外科）
副委員長	芦川 牧子（集中治療室）	委員	遠藤 由樹（心臓血管外科）
委員	坪井 一人（外科）	委員	高橋 康人（腎臓内科）
委員	村上 雅哉（泌尿器科）	委員	佐野 達哉（臨床工学科）
委員	永嶋 泰玄（リハビリテーション科）	委員	越智 悦子（集中治療室）
委員	三國 実保（集中治療室）	事務局	澤山 由里子（医事課）
事務局	宮城島 基生（医事課）		

2 開催回数

2回（5月・2月）

3 令和7年度の取組実績

（1）ICU の運営

ICU 入室基準、遠隔 ICU 他について検討

（2）統計報告

【表1】ICU 科別月別入室患者数

【表2】ICU における急性血液浄化件数

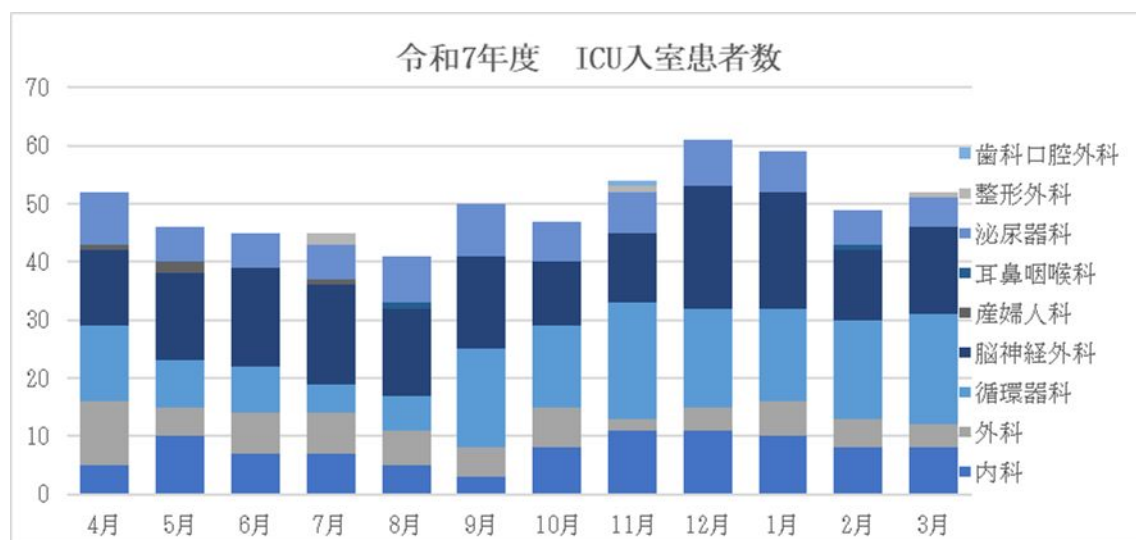
【表3】ICU における IABP、PCPS 件数

【表1】ICU 科別月別入室患者数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	5	10	7	7	5	3	8	11	11	10	8	8	93
外科	11	5	7	7	6	5	7	2	4	6	5	4	69
循環器科	13	8	8	5	6	17	14	20	17	16	17	19	160
脳神経外科	13	15	17	17	15	16	11	12	21	20	12	15	184
産婦人科	1	2		1									4
耳鼻咽喉科					1						1		2
泌尿器科	9	6	6	6	8	9	7	7	8	7	6	5	84
整形外科				2				1				1	4
歯科口腔外科								1					1

形成外科													
月合計	52	46	45	45	41	50	47	54	61	59	49	52	601



【表2】ICUにおける急性血液浄化件数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CHDF	3	3	1	3	2	1	2	2	2	3	2	5	29
PMX	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
PE	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
月合計	3	3	2	4	2	1	2	2	3	3	2	5	32

【表3】ICUにおけるIABP、PCPS件数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
IABP	6	2	1	1	2	1	1	1	0	2	0	2	19
PCPS	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3	1	0	7
月合計	7	2	1	2	2	1	2	1	0	5	1	2	26

4 令和8年度の課題

対象患者の拡大について等の検討

(文責 阪本 宏志)

■医療事故調査委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	梶本 徹也（副院長兼総括部長兼医療安全対策室長）	委員	内科系医師（その都度指名）
委員	外科系医師（その都度指名）	委員	加藤 寛史（診療技術部長兼薬剤科長）
委員	中村 三千代（副看護部長）	委員	高橋 克典（病院総務課長）
委員	寺田 和子（医事課長）	委員	若本 奈緒美（専従リスクマネジャー）
委員	医療事故に係る医療行為を行った者、及び当該診療科部長		
事務局	石井 津与志（病院総務課）		

2 開催回数

案件により随時開催する。

3 令和7年度の実績

令和7年度は、委員会を1回開催した。

4 令和8年度の課題

「医療事故の事実関係に関すること」、「医療事故の患者の身体等への影響度に関すること」、「医療事故の原因究明に関すること」、「医療事故の再発防止に関すること」について、より積極的に医療事故の検証に取り組んでいく。

引き続き、一定の患者影響レベル以上の医療事故およびオカレンスレポートからも事例を選んでいく。

（文責 梶本 徹也）

■医療事故対策委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	児島 章（院長）	委員	藤井 常宏（副院長）
委員	梶本 徹也（副院長兼診療部総括部長）※	委員	野田 靖人（副院長）
委員	秋山 ゆかり（副院長兼看護部長）	委員	河野 優（診療部総括副部長）
委員	加藤 寛史（診療技術部長）	委員	青木 洋（事務部長）
委員	高橋 克典（病院総務課長）	委員	若本 奈緒美（専従リスクマネージャー）
事務局	石井 津与志（病院総務課）		

※委員会要綱第3条（組織）に基づく、医療安全管理統括責任者、医療安全対策室長を兼務

2 開催回数

案件により随時開催する。

3 令和7年度の取組実績

医療事故対策委員会は、緊急対応を必要とする医療事故が発生した場合、その事故に係わる当院の方針を決定することを目的として、平成21年9月に設置された。

令和7年度は、委員会を開催すべき案件はなかった。

4 令和8年度の課題

委員会の開催を必要とする医療事故が万が一発生した場合は、速やかに委員会を開催し、事実関係に基づき最善の方針を決定していく。

（文責 児島 章）

■血液浄化・透析機器安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	高橋 康人（腎臓内科）	副委員長	杉山 弘一（臨床工学科）
委員	富永 美保（外来A）	委員	小林 二十美（6B）
委員	渡邊 弘江（外来A）	委員	チョウドリ 真奈美（ICU）
委員	半田 陽子（外来A）	事務局	木塚 智徳（医事課）
事務局	川本 悦子（医事課）		

2 開催回数

12回（毎月1回、第3水曜日）

3 令和7年度の取組実績

- ・毎月の委員会において、透析室水質管理表の報告（表1）、急性血液浄化及び維持透析等の実施状況の確認を行った。
- ・透析にかかわる各種医療機器の購入・更新・保守について適宜検討を行った。
- ・透析機器の運用について確認を行った。
- ・令和8年診療報酬改定に対応し、新設された加算の届出検討を行った。

血液透析施行患者数	326人	（血液透析施行件数 2,554件）
腹膜透析診療患者数（年度末）	7人	
うち血液透析＋腹膜透析併用療法患者数	0人	
維持透析導入患者数	63人	（血液透析 60人、腹膜透析 3人）
急性血液浄化施行患者数	48人	
うち持続血液濾過透析	28人	
エンドトキシン吸着療法	2人	
二重濾過血漿交換	9人	
血漿交換	1人	
白血球除去療法	7人	
血漿吸着療法	1人	

表 1－透析室水質管理表（令和 7 年度）

	RO		セントラル	
	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)
4 月	0.0007	0	0.0007	0
5 月	0.0007	0	0.0007	0
6 月	0.0007	0	0.0011	0
7 月	0.0007	0	0.0007	0
8 月	0.0007	0	0.0007	0
9 月	0.0007	0	0.0007	0
10 月	0.0007	0	0.0009	0
11 月	0.0007	0	0.0007	0
12 月	0.0006	0	0.0007	0
1 月	0.0007	0	0.0007	0
2 月	0.0007	0	0.0012	0
3 月	0.0007	0	0.0012	0

	コンソール		コンソール		コンソール No.
	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	
4 月	0.0007	0	0.0007	0	③ ④
5 月	0.0007	0	0.0007	0	⑤ ⑥
6 月	0.0007	0	0.0007	0	⑦ ⑧
7 月	0.0007	0	0.0007	0	⑨ ⑩
8 月	0.0007	0	0.0007	0	① ②
9 月	0.0007	0	0.0007	0	③ ④
10 月	0.0007	0	0.0007	0	⑤ ⑥
11 月	0.0007	0	0.0007	0	⑦ ⑧
12 月	0.0007	0	0.0007	0	⑨ ⑩
1 月	0.0007	0	0.0007	0	① ②
2 月	0.0007	0	0.0007	0	③ ④
3 月	0.0007	0	0.0007	0	⑤ ⑥

4 令和 8 年度の課題

- ・老朽化の進んでいる機器、耐用年数超えの機器の更新を行っていく。
- ・新規導入患者の増加への対応について検討していく。

（文責 高橋 康人）

■周産期医療機器安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	矢田 大輔（産婦人科部長）～9月	委員長	田島 浩子（産婦人科副部長）10月～12月
委員長	東堂 祐介（産婦人科部長）1月～	副委員長	尾形 仁（小児科副部長）
委員	山下 かずみ（4 A看護長）	委員	持田 和美（4 B看護長）
委員	石井 治雄（病院総務課主幹）	委員	勝間田 賢（臨床工学科）
事務局	臨床工学科		

2 開催回数

令和7年度2回開催

3 令和7年度の実績

- （1）非侵襲的呼吸器のデモンストレーションをおこなった。呼吸器管理の選択肢が広がるため、購入も検討している。
- （2）生命維持管理装置の保守点検契約を結んだ結果として、人件費や修理費などのコスト面を大幅に削ることができ、機器トラブルの際にも迅速な対応をとることで、安全な医療を提供できた。
- （3）インファントウォーマー1台・搬送用保育器1台の更新ができた。

4 令和8年度の課題

- （1）周産期全体として生命維持管理装置以外にも更新が必要であれば検討し、安心・安全な医療を提供する。

（文責 東堂 祐介）

■地域医療連携推進委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	野田 靖人（地域連携担当副院長）	副委員長	鈴木 俊雅（外科）
委員	河野 優（脳神経内科）	委員	杉山 伸一（中央放射線科）
委員	中村 公美（リハビリテーション科）	委員	中村 三千代（副看護部長）
委員	尾崎 悦子（3C看護長）	委員	富永 美保（外来A看護長）
委員	齋藤 滋貴（病院経営課）	委員	寺田 和子（医事課）
委員	齋藤 正美（地域医療連携センター）	委員	野畑 圭子（地域医療連携センター）
事務局	和泉 由佳（地域医療連携センター）	事務局	濱田 ひろみ（地域医療連携センター）

＜概要＞ 地域の関連する医療機関、介護・福祉施設、行政機関等との連携を推進し、紹介患者の効率的な入院を促進するとともに治療を終了した患者が、地域において継続的かつ適切な医療サービスの提供を受けるための支援を目的とし、中央病院の院内・院外連携を推進し地域医療連携センターの業務を補完する。

2 開催回数 4回 （4月24日・7月24日・11月27日・2月26日）

3 令和7年度の取組実績

（1）前年度のセンター業務実績の確認

紹介率	逆紹介率	ふじのくにネット開示	退院支援	訪問回数	相談件数
80.0%	78.9%	1,463 件	9,705 人	1,541 回	16,075 件 (うちがん相談1,440件)

＜退院調整＞

在宅退院	転院	介護・福祉施設	調整中に死亡	計
804 人	981 人	380 人	238 人	2,403 人

（2）地域医療支援病院としての取組

- ・連携医療機関等訪問、診療放射線技師によるクリニック訪問（計62か所）
- ・「診療科と医師の紹介」「地域医療連携だより」発行

（3）入退院支援部会の創設について

- ・現状ワーキンググループでの活動を来年度より下部組織の部会とする
- ・PFMの定義や活動範囲を新病院設立に合わせ精査

4 令和8年度の課題

- ・リハビリ関連施設の受入状況

- ・ 病床逼迫対策と連携搬送
- ・ 病床数、病棟運営

(文責 野田 靖人)

■患者サービス向上委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	秋山 ゆかり（副院長兼看護部長）	副委員長	外岡 雄二（精神神経科）
委員	秋山 直枝（小児科）	委員	永田 りの（臨床検査科）
委員	岩本 一徳（薬剤科）	委員	小林 宏美（副看護部長）
委員	神谷 ちとせ（5 B病棟）	委員	大原 知子（4 B病棟）
委員	佐野 好美（6 A病棟）	委員	近藤 靖代（6 A病棟）
委員	松本 優貴子（外来B）	委員	滝澤 佐織（地連）
委員	山口 寛人（病院総務課）	委員	小泉 幸紀（医事課）
委員	斉藤 美智代（ニチイ）	委員	石井 君佳（ニチイ）
事務局	金子 雄介（病院経営課）		

2 開催回数

12 回（毎月第 4 木曜日）

3 令和 7 年度の取組実績

- （1）あいさつ運動（ 50 回、参加者 221 名）
- （2）院内掲示物巡回（外来：9 月 25 日、病棟：10 月 23 日）
- （3） 院内コンサート（8 月 27 日：富士川ウインドアンサンブル
12 月 17 日：元吉原ウインドアンサンブル）
- （4）接遇研修（8 月 1 日～10 月 31 日）
 - ・クレーム対応研修（オンライン）全職員対象
- （5）院内ギャラリーの運営

展示月	展 示 会 名	団 体 名 等	出展作品
4 月	ある療養者の心の就活画展	後藤 一成	色鉛筆画
	模写	大竹 精治	絵画
5 月	love my birds の絵画展	love my birds	絵画
	インクアート展	内藤 恵子	絵画
6 月	押花展	押花グループ葵	額押花
	B 型事業所でじるみ富士展示会	でじるみ富士	デジタルアート

展示月	展 示 会 名	団 体 名 等	出展作品
7 月	光風（ひかるふう）フラワーアート展	佐野 輝子	壁面に飾る物
	cactusyuu の植物画	田中 雄三	絵画
8 月	莓一笑己書道場作品展	莓一笑己書道場	筆ペンアート
	鉛筆と色えんぴつ画展示会	富士鉛筆画同好会	絵画
9 月	加藤昇二 デジタルアート展	加藤 昇二	デジタルアート
	似顔絵アートの会展示会	似顔絵アートの会	絵画
10 月	ある療養者の心の就活画展	後藤 一成	色鉛筆画
11 月	笑顔の己書展	一般社団法人日本己書道場	筆文字と絵
12 月	絵の展示会	河邊絵画教室	絵画
1 月	cactusyuu の植物画展	田中 雄三	絵画
2 月	保育所の子どもの作品	富士市立中央病院 保育所	絵画等
3 月	love my birds の絵画展	love my birds	絵画

（６）正面玄関前広場花壇における花苗の植え替え（４月、６月、９月、１１月）

（７）管理会議、院内連絡会議におけるお礼状等の報告（毎月）

（８）飲食スペースの案内表示の強化

（９）病院機能改善委員会との統廃合の検討

４ 令和８年度の課題

検討の結果、本委員会は令和８年度から病院機能改善委員会に統合されることとなった。本委員会の所管事業は、病院機能改善委員会の患者サービス企画部会が継続していく。令和８年度についても引き続き、院内コンサート、あいさつ運動、院内掲示物の巡回、接遇研修、院内ギャラリー展示会の開催、花壇の管理、お礼状等の報告を実施する。

（文責 秋山 ゆかり）

■学術活動推進委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	藤井 常宏（副院長兼糖尿病・内分泌・血液内科部長）	副委員長	三橋 真（医局長・整形外科副部長）～6月
副委員長	佐野 透（医局長・脳神経外科医長）7月～	委員	吉田 清哉（外科副部長兼感染対策室長）
委員	小林 宏美（副看護部長）	委員	山本 美保子（5A病棟）
委員	菅原 和仁（中央放射線科）	委員	小林 正典（薬剤科）
委員	木塚 智徳（医事課）	委員	小池 博也（病院経営課）
事務局	百澤 伯昭（病院総務課）		

2 開催回数

12回（毎月1回、第3水曜日）

3 令和7年度の実績

学術活動の企画・立案・運営及び、学術に関する病院資産の有効活用を目的に活動した。

【第32回市民公開講座】令和7年5月29日（木）

東京慈恵会医科大学から、救急災害医学講座の武田聡主任教授を招聘し開催した。
ロゼシアター小ホール（会場型のみ）／参加者：114名
オンライン配信は行わず会場型のみとして開催した。コロナの影響で自粛していた会場型での開催を再開して以降で、市民の来場者が最多となった。今回も電子申請フォームを使用した募集を行ったが、ポスターやチラシ、病院だよりに申請用QRコード掲載したことで一般の応募が増加した。

【第39回富士シンポジウム】令和7年6月12日（木）

大会議室およびオンライン配信／参加者：110名（会場：86名、オンライン：24名）
会場型と「Zoom」によるオンラインライブ型を併用したハイブリッド開催とした。
会場への来場者が増加し、オンライン参加は減少傾向にあるが、一定の需要はあるため今後も継続していく。

【第42回院内学術集会】令和7年8月29日（金）

大会議室／参加者：140名
一般演題発表のみの実施とし、開始時間を例年より1時間遅らせたところ、コロナ禍以降最多の来場者数となった。院内の関心も高い事業であるため、多くの職員が参加しやすい時間での開催を今後も検討していく。

【第33回市民公開講座】令和7年11月22日（土）

大会議室およびオンライン配信／参加者：89名（会場：77名、オンライン：12名）

会場型と「Zoom」によるオンラインライブ型を併用したハイブリッド開催とした。今回は初の試みとして、平日夜間では参加しにくい子育て世代やこどもが参加できるよう土曜日午前開催としたが、インフルエンザの流行の影響もあり、来場者数増につながらなかった。

4 令和8年度の課題

「富士シンポジウム」「院内学術集会」「市民公開講座」では、テーマや開催方法についてこれからの時代に合った更なる工夫を凝らし、より多くの方に参加してもらえるような内容を引き続き検討する。特に「市民公開講座」は市民向け講演会であるということを念頭に置き、企画段階から対象の絞り込みやターゲットに合わせた開催日時を検討するなど、参加しやすくなる工夫をしていく必要がある。

また、病院年報についても、取り組みがより伝わるよう、工夫を凝らした内容になるよう、検討を重ねていく。

(文責 坪井 一人)

■病棟委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	阪本 宏志（循環器内科）	副委員長	吉田 清哉（外科）
委員	廣津 貴夫（糖尿病・内分泌・血液内科）	委員	高橋 康人（腎臓内科）
委員	河野 優（脳神経内科）	委員	奥津 裕也（整形外科）
委員	尾形 仁（小児科）	委員	佐野 透（脳神経外科）
委員	坊 英明（形成外科）	委員	村上 雅哉（泌尿器科）
委員	田嶋 瑞帆（皮膚科）	委員	渡辺 勝（眼科）
委員	加藤 貴史（産婦人科）	委員	武内 信親（歯科口腔外科）
委員	稲垣 伸一（中央放射線科）	委員	渡邊 広明（臨床検査科）
委員	小俣 朋子（栄養科）	委員	佐野 達哉（臨床工学科）
委員	大滝 哲也（薬剤科）	委員	深澤 史朗（リハビリテーション科）
委員	渡邊 葉子（副看護部長）	委員	中村 三千代（副看護部長）
委員	山下 かずみ（4 A病棟）	委員	前嶋 良子（3 B病棟）
委員	小林 二十美（6 B病棟）	委員	山本 美保子（5 A病棟）
委員	滝澤 佐織（地域医療連携センター）	委員	齋藤 薫美（7 A病棟）
委員	大原 知子（4 B病棟）	委員	宇佐美 和代（3 C病棟）
委員	佐野 好美（6 A病棟）	委員	佐野 かなえ（5 B病棟）
委員	齋藤 滋貴（病院経営課）	委員	越智 悦子（ICU）
委員	寺田 和子（医事課）	委員	高橋 克典（病院総務課）
事務局	金子 雄介（病院経営課）		

2 開催回数

5回（偶数月開催）

3 令和7年度の実績

- ・病床配分に関する要望調査実施（6月）。
- ・倫理ノート利用状況報告の作成（上半期4～9月、下半期10～3月）。
- ・面会規程の作成、消灯時間の変更検討。

4 令和8年度の課題

- ・令和8年度事業計画の目標値（病床利用率76.9%）の達成
- ・病棟業務に関する課題の抽出、改善
（病床配分、倫理課題、身体的拘束、HCU運用、ベッドコントロール等）
（文責 阪本 宏志）

■勤務環境改善委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	児島 章（病院事業管理者兼院長）	委員	梶本 徹也（副院長兼総括部長）
委員	佐野 透（医局長）	委員	秋山 ゆかり（副院長兼看護部長）
委員	加藤 寛史（診療技術部長兼薬剤科長）	委員	中村 三千代（副看護部長）
委員	良元 和久（診療情報管理室長）	委員	渡邊 葉子（副看護部長）
委員	青木 洋（事務部長）	委員	齋藤 滋貴（病院経営課長）
委員	高橋 克典（病院総務課長）	委員	寺田 和子（医事課長）
事務局	佐野 昌哉（病院総務課）	事務局	川口 真季子（病院総務課）
事務局	佐山 侑希（病院総務課）		

2 開催回数

3回

3 令和7年度の取組実績

（1）令和7年度の取組実績

- ・勤務環境改善計画の取組、進捗確認
- ・医師労働時間短縮計画の取組、進捗確認
- ・勤務医等の負担の軽減及び処遇の取組、進捗確認
- ・時間外勤務の状況確認及び総労働時間短縮に関する取組
- ・医師の働き方改革の対応

（2）検討内容等

- ・時間外労働の削減について
- ・医師の労働時間短縮に向けた取組
- ・36 協定について

4 来年度の課題

- ・勤務環境改善に係る各計画における取組の推進
- ・健康確保措置等、長時間労働者に対する取り組み

（文責 児島 章）

■外来委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 俊雅（外科部長）	副委員長	藤谷 暢子（眼科部長）
委 員	藤井 常宏（副院長兼糖尿病・内分泌・血液内科部長）	委 員	廣津 貴夫（糖尿病・内分泌・血液内科副部長）
委 員	木村 哲夫（呼吸器内科部長）	委 員	桐生 幸苗（消化器内科医長）
委 員	高橋 康人（腎臓内科部長）	委 員	河野 優（脳神経内科部長）
委 員	鈴木 英訓（高齢診療科医長）	委 員	成瀬 瞳（心臓血管外科副部長）
委 員	富永 光敏（循環器内科副部長）	委 員	秋山 直枝（小児科部長）
委 員	吉田 清哉（感染対策室長兼外科副部長）	委 員	下方 瑠美（整形外科医員）
委 員	坊 英明（形成外科医長）	委 員	楠原 匡（脳神経外科医員）
委 員	佐々木 貴充（産婦人科医長）	委 員	津島 友央（皮膚科部長）
委 員	稲葉 雄三（泌尿器科医長）	委 員	仲尾次 優輝（耳鼻咽喉科医長）
委 員	萩原 翔（放射線画像診断科部長）	委 員	岡林 俊（放射線治療科医長）
委 員	井上 恒佳（麻酔科部長）	委 員	外岡 雄二（精神神経科部長）
委 員	大岩 浩気（歯科口腔外科副部長）	委 員	遠藤 泰彦（病理診断科部長）
委 員	栗原 有紀子（臨床検査科主任）	委 員	鍋島 雄和（中央放射線科副技師長）
委 員	杉山 弘一（臨床工学科主査）	委 員	幾嶋 邦人（リハビリテーション科主任）
委 員	川口 敬（薬剤科参事補兼主査）	委 員	谷津倉 融依（栄養科主任）
委 員	長橋 あゆみ（医療技術科主任）	委 員	中村 三千代（副看護部長（総務））
委 員	渡邊 葉子（副看護部長（経営））	委 員	富永 美保（外来看護長）
委 員	望月 敦子（外来副看護長）	委 員	渡邊 弘江（外来副看護長）
委 員	佐野 幸代（外来副看護長）	委 員	田中 圭子（外来副看護長）
委 員	野畑 圭子（地域連携センター看護長）	委 員	齋藤 滋貴（病院経営課長）
委 員	高橋 克典（病院総務課長）	委 員	寺田 和子（医事課長）
事務局	小林 秀規（医事課医事担当統括主幹）	事務局	小泉 幸紀（医事課医事担当主幹）

2 開催回数

5回

3 令和7年度の取組実績

（1）共通問診票について

各診療科の問診票とは別に「共通問診票」の記入についても、患者さんをお願いしている。共通問診票と各科問診票の記載時間の短縮も考慮し、問診票の統一化と問診票運用のルールの見直しを行った。

令和 8 年 1 月に開催された外来委員会にて、改定共通問診票が承認された。

改定共通問診票と各科問診票において、共通記載事項があれば、各科問診票から削除することとし、各科問診票の見直しを令和 8 年 3 月に行い、令和 8 年 4 月 1 日から共通問診票の運用を開始した。

(2) 待ち時間対策について

患者待ち時間の現状について、待ち時間調査の結果をもとに、情報交換や課題検討を行った。また、病院における患者の待ち時間への不満は、満足度低下・再診離脱の要因の一つであり、患者呼び出しシステムの導入および治療費後払いシステムについて検討を重ねており、情報収集を行った。

(3) 検査・処置・手術のための休薬説明依頼票について

中止薬説明依頼票は、手書きによる見間違いなどが起こるリスクがあるため、フォーマットに直接打ち込む仕様とすることを提案された。それに伴い手順書も見直すこととした。

中止薬説明依頼票のフォーマットにおいては、電子カルテ内に置くこととし、医師が入力することとし、運用についても、全体的に見直しを行い、看護部、薬剤科などと協議し作成した。令和 8 年 3 月院内連絡会議にて報告し、令和 8 年 4 月 1 日より運用を開始した。

(4) 外来診療に係る診療報酬算定及び施設基準について

「診療情報提供料 I (退院時情報添付)」(以下「退院時情報添付」という)の算定率向上を目指して、退院時情報添付の月別算定率を報告するとともに、算定漏れを防ぐため、算定要件に追加できる候補を挙げ、各診療科に協力をお願いした。

4 令和 8 年度の課題

- (1) 外来部門に係るさまざまな問題や課題の検討
- (2) 新病院建設に向けた課題(ユニバーサル外来等)の検討
- (3) 待ち時間を短縮し、感染防止に努め、安全安心な医療を提供
- (5) 「外来患者の待ち時間対策」について、引き続き診療科の現状を検証および協議していくとともに、LINE などを活用した待ち時間短縮の仕組みづくりの検討
- (5) 地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携強化に努め、地域医療の質向上
- (6) 退院時情報添付について、各診療科へ引き続き働きかけ

(文責 鈴木 俊雅)

■放射線安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	梶本 徹也（副院長兼統括部長）	副委員長	杉山 伸一（中央放射線科技師長）
委員	秋山 ゆかり（副院長兼看護部長）	委員	良元 和久（診療情報管理室長）
委員	菅原 和仁（中央放射線科副技師長）	委員	高橋 克典（病院総務課長）
委員	佐野 和美（病院総務課統括主幹）	委員	石井 津与志（病院総務課統括主幹）
委員	鈴木 浩之（中央放射線科主任）	委員	秋田 真弓（中央放射線科主任）
委員	神田 直樹（中央放射線科主査）		

2 開催回数 1回

3 令和7年度の実績

- ・放射性同位元素等の規制に関する法律（以下、RI規制法）および医療法等により定められた以下の項目を実施した。

個人被ばく線量測定	12回／年
健康診断	2回／年
放射線治療室漏洩線量測定	2回／年
自主点検（放射線治療室）	2回／年
教育訓練（放射線業務従事者）	1回／年
放射線管理状況報告書提出	1回／年
保健所立入検査	1回／年
RI使用予定届提出	1回／年

- ・ RI規制法に基づき、令和6年度の放射線治療室の自主点検および放射線業務従事者の管理状況について、原子力規制委員会に提出
- ・ 放射線障害予防規定改定

4 令和8年度の課題

- ・ 放射線障害防止のために引き続き必要な事項を企画審議していく。

（文責 梶本 徹也）

■災害対策委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	野田 靖人（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	青木 洋（事務部長）
委員	良元 和久（診療情報管理室・外科）	委員	遠藤 泰彦（病理診断科）
委員	高橋 康人（腎臓内科）	委員	稲葉 雄三（泌尿器科）
委員	津嶋 友央（皮膚科）	委員	岩崎 佐知子（臨床検査科）
委員	杉山 伸一（中央放射線科）	委員	加藤 寛史（薬剤科）
委員	中村 三千代（看護部長室）	委員	芦川 牧子（集中治療室）
委員	野澤 治（外来D）	委員	齋藤 滋貴（病院経営課）
委員	高橋 克典（病院総務課）	委員	寺田 和子（医事課）
委員	櫻井 みどり（病院総務課）	委員	永田 好延（警備室）
外部委員	山本 太（※）	事務局	百澤 伯昭（病院総務課）

（※）水道技術管理者・水道維持課長

2 開催回数

12回（毎月第1火曜日）

3 令和7年度の実績

- ・院内災害対策訓練の実施

令和8年3月8日（日） 合計90名参加

本部運営訓練、外来対応訓練（机上）、EMIS入力訓練

- ・トイレトレーラー運用オペレーションの実施

令和8年1月28日（水）

市関連部門（防災危機管理課、上下水道部、廃棄物対策課）と民間企業との合同訓練（トイレトレーラー・給水車・バキュームカーの搬入・搬出、搬入・タンク給水・トレーラー給水、バキュームカー搬入搬出・汚水タンク排水）

- ・災害用資機材の購入（配備実績）

災害用レスキューシート（13枚）、液体ミルク（7箱）の購入

- ・災害対策マニュアルの策定

部門ごとに災害発生時に迅速な対応ができるよう、初期被災状況報告書第二報提出までの初期行動マニュアルを策定した。

4 令和8年度の課題

災害拠点病院として、急性期における医療救護活動と傷病者の広域搬送及び地域医療機関の支援に貢献するため、全員参加型の災害対策訓練を開催し、職員一人ひとりの災

害医療に対する技術及び知識向上を図る。また、災害対策用設備・資機材等の修繕および配備を計画的に行っていく。

また、引き続き事業継続計画（BCP）の更新を検討し、診療の継続を第一に早期に事業の継続を可能にするべく、常に実態に沿った現実的な計画を策定する。さらに、災害時行動マニュアルの策定・見直しを進め、災害発生時の初期行動を院内に周知徹底するとともに、災害意識を高めるための災害基礎知識研修を行っていく。

（文責 野田 靖人）

■防火管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	梶本 徹也（副院長兼総括部長兼医療安全対策室長）	副委員長	野田 靖人（副院長兼脳神経外科部長）
副委員長	藤井 常宏（副院長兼糖尿病・内分泌・血液内科部長）	副委員長	秋山 ゆかり（副院長兼看護部長）
副委員長	青木 洋（事務部長）	副委員長	高橋 克典（病院総務課長）
委員	加藤 寛史（診療技術部長兼薬剤科長）	委員	杉山 伸一（中央放射線科技師長）
委員	磯崎 曜大（栄養科栄養士）	委員	中村 三千代（副看護部長）
委員	小林 宏美（副看護部長）	委員	齋藤 滋貴（病院経営課長）
委員	寺田 和子（医事課長）	委員	齋藤 正美（地域医療連携センター長兼副看護部長）
委員	佐野 和美（病院総務課施設物品担当統括主幹）	委員	永田 好延（警備室）
事務局	病院総務課施設物品担当		

2 開催回数

2回（8月、2月）

3 令和7年度の実績

- ・消防法の規定に基づき、院内消防訓練を2回実施した。

第1回目は、8月14日に実施した。避難経路図を用いた避難訓練、初期消火訓練および消防設備の説明を実施した。

第2回目は、2月3日に実施した。第1回と同様の訓練を実施した。

4 令和8年度の課題

令和8年度も引き続き消防訓練を実施し、職員の防火への意識向上を図っていく。

（文責 梶本 徹也）

■虐待対策委員会（G T I）

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	秋山 直枝（小児科部長）	副委員長	藤井 常宏（副院長兼糖尿病・内分泌・血液内科部長）
委員	奥津 裕也（整形外科部長）	委員	佐野 透（脳神経外科医長）
委員	尾形 仁（小児科副部長）	委員	中村 三千代（副看護部長）
委員	富永 美保（外来看護長）	委員	諸星 宮子（3 B病棟副看護長）
委員	大原 知子（4 B病棟副看護長）	委員	高橋 克典（病院総務課長）
委員	寺田 和子（医事課長）	委員	佐藤 理恵（総合相談室主幹）
委員	遠藤 卓馬（地域医療連携室）	委員	齋藤 香須美（地域医療連携室）
事務局	鈴木 訓枝（地域医療連携室主幹）		

2 開催回数

定例開催 3回 院内ケース検討会 5回

3 令和7年度の取組実績

委員会として対応した件数は、32事例である。内訳は、児童19件、高齢者5件、DV7件、障害者1件となっている。院内ケース検討会を開催した事例は5件で、いずれも関係機関と連携し対応している。

また、児童虐待防止研修を開催した。

今後も、虐待の疑われる患者への対応を迅速に行い、発生時における適切な対処と関係機関との緊密な連携に努めていく。

【 令和7年度 虐待対策委員会 対応ケース 】 (件)

	介入数	3日以内の介入数	ケース検討会開催数	3日以内のケース検討会開催数
児童	19	18	4	4
高齢者	5	2	0	0
DV	7	6	1	1
障害者	1	1	0	0
合計	32	27	5	5

4 令和8年度の課題

- ・職員を対象とした虐待防止研修の実施

（文責 秋山 直枝）

■利益相反（COI）委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	遠藤 泰彦（病理診断科部長）	副委員長	藤井 常宏（副院長兼糖尿病・内分泌・血液内科部長）
委員	秋山 ゆかり（副院長兼看護部長）	委員	加藤 寛史（薬剤科長）
委員	青木 洋（事務部長）	事務局	石井 津与志（病院総務課）

2 開催回数

案件により随時開催する。

3 令和7年度の取組実績

利益相反委員会は、外部との経済的な利益関係により公的研究で必要とされる「公正」「適正」な判断が損なわれる、または損なわれているのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態について適正な管理を行うため、平成27年4月1日に設置した。

また、平成30年4月1日に臨床研究法が施行されたことに伴い、法に基づく利益相反管理の内容について共通理解を行うと共に関係機関との整合性を図ったうえで当院における利益相反規定等を見直し改正を行った。

令和7年度は、委員会を開催すべき案件はなかった。

4 令和8年度の課題

委員会の開催を必要とする利益相反が申請された場合は、速やかに委員会を開催し、利益相反管理規定に定める利益相反の適切な管理及び透明性の確保に努める。

（文責 遠藤 泰彦）

■NICU運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	秋山 直枝（小児科）	副委員長	田島 浩子（産婦人科）
副委員長	尾形 仁（小児科）	副委員長	持田 和美（4B 病棟）
委員	野中 絵美（小児科）	委員	井上 結貴（産婦人科）
委員	佐々木 貴充（産婦人科）	委員	山下 かずみ（4A 病棟）
委員	菅原 早苗（4A 病棟）	委員	大原 知子（4B 病棟）
事務局	山田 勝彦（医事課）	事務局	木塚 智徳（医事課）

2 開催回数

0 回（必要時開催）

3 令和 7 年度の取組実績

令和 6 年度までの運営方針を継続し、新生児医療に取り組んだ。

4 廃止について

病院運営の効率化、負担軽減を目的として、委員会組織の再編を進めており、その一環として、これまで設置されていた NICU 運営委員会を廃止することとなった。

（文責 秋山 直枝）

■リハビリテーション運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	奥津 裕也（整形外科）	副委員長	河野 優（脳神経内科）
副委員長	中村 公美（リハビリテーション科）	委員	野田 靖人（脳神経外科）
委員	富永 光敏（循環器内科）	委員	良元 和久（外科）
委員	尾崎 悦子（看護部）	委員	加藤 寛史（診療技術部）
委員	櫻井 雅之（医事課）	委員	小澤 純子（地域医療連携センター）
事務局	リハビリテーション科		

2 開催回数

3回（7月・11月・2月）

3 令和7年度の取組実績（議事内容）

第1回：令和6年度事業計画結果報告

リハビリテーションに関する審議

- ・リハビリテーション実施計画書のサイン
- ・指示簿内の安静度の記載内容
- ・ハイリスク患者の同意書 他

第2回：リハビリテーションに関する審議

- ・ハイリスク患者の同意書（継続審議）
- ・リハビリ介入基準（PT/OT）【介入前、介入後】 他

第3回：廃用症候群リハビリテーションの処方制限及び廃用予防目的のリハビリテーションの処方禁止に係わる審議と令和8年度事業計画報告

4 令和8年度の課題

- ・リハビリ専門医または認定医の常勤配置を目指す
- ・臨床知識、技術を高め専門性の高いリハビリテーションを提供する
- ・多職種連携を進め、「早期リハビリ介入」「在院日数の短縮」を目指す
- ・収益増加を目指す
- ・休日リハビリテーションの実施への取り組みを継続し「早期介入」「途切れのないリハビリテーションの提供」を進める

（文責 奥津 裕也）

■医療機器等導入機種選定委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	児島 章（院長）	副委員長	青木 洋（事務部長）
委員	藤井 常宏（副院長兼血液内科部長）	委員	梶本 徹也（副院長兼総括部長）
委員	秋山 ゆかり（副院長兼看護部長）	委員	加藤 寛史（診療技術部長）
委員	岡田 和教（中央放射線科）	委員	齋藤 滋貴（病院経営課長）
委員	高橋 克典（病院総務課長）	事務局	石井 治雄（病院総務課）

2 開催回数

1 回

3 令和 7 年度の取組実績

病院事業に資する医療機器等の購入に際し、最も適正な機器選定を行うことを目的とした医療機器導入機種選定委員会を開催した。以下の高額医療機器の購入に際し、納入価格や機器の能力、規格、機能、仕様等を審査した。

- ・血管撮影装置（17 室）

4 令和 8 年度の課題

令和 8 年度も医療機器等の購入に際し、最も適正な機器選定を行い、適正かつ効率的な購入の推進を図っていく。

（文責 児島 章）

■地域がん診療連携拠点病院運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	藤井 常宏（副院長）	副委員長	青木 洋（事務部長）
委員	梶本 徹也（副院長・緩和ケア委員会）	委員	野田 靖人（副院長）
委員	良元 和久（クリニカルパス委員会）	委員	金井 友哉（消化器内科）
委員	矢田 大輔（産婦人科）	委員	村上 雅哉（泌尿器科）
委員	秋山 直枝（小児科）	委員	加藤 寛史（診療技術部）
委員	川口 敬（薬剤科）	委員	中村 三千代（看護部長室）
委員	渡邊 葉子（看護部長室）	委員	齋藤 滋貴（病院経営課）
委員	浅沢 美由樹（地域医療連携センター）	事務局	齋藤 正美（地域医療連携センター）
事務局	野畑 圭子（地域医療連携センター）	事務局	和泉 由佳（地域医療連携センター）
事務局	佐野 奈津子（地域医療連携センター）		

2 開催回数

10 回（6 月 4 日、7 月 2 日、8 月 6 日、9 月 4 日、10 月 3 日、11 月 14 日、
12 月 12 日、1 月 16 日、2 月 13 日、3 月 13 日）

3 令和 7 年度の実績

（1）地域がん診療連携拠点病院の未達成要件の検討

- ・次回改定時必須要件となる、B 要件について確認。
- ・望ましい要件である C 要件について、クリアするのは難しい面もあるが、できるところから進めていく。

（2）がん診療連携拠点病院等現況報告（令和 7 年 10 月 8 日）

（3）がん教育について

静岡県がん教育における外部講師として、令和 7 年 8 月 26 日東小学校（6 年生 9 人）へ緩和ケア認定看護師、令和 7 年 10 月 9 日静岡県立富士特別支援学校富士東分校（2 年生 15 人）へがん薬物療法看護認定看護師を派遣した。

（4）静岡県がん連携協議会各部会報告

4 令和 8 年度の課題

医師の確保が困難な状況になってくることもあると思うが、拠点病院としての資格を失うという危機的な状況を避けるべく、今後も拠点病院を維持できるよう委員会を運営していく。

（文責 藤井 常宏）

■看護師特定行為研修管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	児島 章（病院事業管理者兼院長）	副委員長	小林 宏美（副看護部長）
委員	秋山 ゆかり（副院長兼看護部長）	委員	梶本 徹也（副院長兼医療安全対策室長）
委員	良元 和久（外科副部長兼診療情報管理室長）	委員	坪井 一人（外科副部長兼手術管理科部長）
委員	阪本 宏志（循環器内科部長）	委員	井上 恒佳（麻酔科部長）
委員	高橋 康人（腎臓内科部長）	委員	成瀬 瞳（心臓血管外科副部長）
委員	若林 久美子（特定認定看護師担当看護長）	委員	笠井 健司（診療参事兼人材育成センター長）
委員	勝又 祐子（人材育成センター看護長）	外部委員	市原 恒平
外部委員	谷田部 沙織	外部委員	林 尚三
事務局	人材育成センター		

2 開催回数

5回

3 令和7年度の取組実績

- ・令和7年度の研修スケジュール
- ・研修の進捗状況及び受講者の履歴状況の管理
- ・受講者の修了評価
- ・次年度受講者の決定
- ・修了者のフォローアップ
- ・募集要項作成及び配布、ウェブサイト更新
- ・委員会設置要綱の作成
- ・令和7年度修了式実施（12月25日）

4 令和8年度の課題

- ・受講者の修了評価
- ・特定看護師の活用
- ・特定行為研修修了者トレーニング計画の進捗状況把握

（文責 児島 章）

■経営改善チーム

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	児島 章（事業管理者兼院長）	副委員長	阪本 宏志（診療部総括副部長兼循環器内科部長）
委員	河野 優（診療部総括副部長兼脳神経内科部長）	委員	良元 和久（診療情報管理室長兼外科副部長）
委員	加藤 寛史（診療技術部長兼薬剤科長）	委員	秋山 ゆかり（副院長兼看護部長）
委員	中村 三千代（副看護部長）	委員	渡邊 葉子（副看護部長）
委員	齋藤 滋貴（病院経営課長）	委員	高橋 克典（病院総務課長）
委員	寺田 和子（医事課長）	委員	島田 英介（診療情報管理室参事補兼主幹）
事務局	小池 博也（病院経営課経営企画担当主査）		

2 開催回数

11回

3 令和7年度の実績

（1）経営コンサル業務の進捗及び課題事項の管理等

- ・取扱テーマの選定
- ・課題対応部門の指名及び課題対応依頼

<令和7年度 経営コンサルミーティング実施一覧>

実施月	テーマ	実施月	テーマ
4月	血液内科ミーティング 認知症ケア+せん妄ハイリスク患者ケア加算	10月	薬剤科ミーティング 外科ミーティング
5月	看護業務量調査 手術室	11月	小児科ミーティング リハビリテーション科ミーティング
6月	看護業務量調査 手術室	12月	看護部業務改善中間報告 地域連携ミーティング
7月	看護業務量調査 泌尿器科ミーティング	1月	入退院支援ミーティング 整形外科ミーティング
8月	看護業務量調査 循環器内科ミーティング	2月	抗菌薬適正使用ミーティング 幹部向け診療報酬改定ミーティング
9月	心臓血管外科ミーティング 泌尿器科ミーティング	3月	薬剤科ミーティング 全職員向け診療報酬改定研修会

(2) 診療報酬改定対応の進捗及び課題事項の管理等

- ・施設基準の届出状況等の把握
- ・施設基準の新規取得等に向けた課題整理

(3) 新たな経営課題の発掘について

- ・チーム内外からの意見に基づく病院全体に関わる経営課題の検討

4 令和8年度の課題

- ・新病院建設に向け、病院経営改善を重視した取り組みを推進していく。
- ・経営コンサルタントを継続活用し、組織を横断的かつ有機的につなぐ役割を担っていく。

(文責 児島 章)

■新病院リニューアルタスクフォース

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	児島 章（院長）	委 員	藤井 常宏（副院長）
委 員	梶本 徹也（副院長）	委 員	野田 靖人（副院長）
委 員	秋山 ゆかり（副院長兼看護部長）	委 員	加藤 寛史（診療技術部長）
委 員	河野 優（総括副部長）	委 員	良元 和久（TQM センター長）
委 員	中村 三千代（副看護部長）	委 員	渡邊 葉子（副看護部長）
委 員	青木 洋（病院事務部長）	委 員	齋藤 滋貴（病院経営課長）
委 員	高橋 克典（病院総務課長）	委 員	寺田 和子（医事課長）
事務局	新病院建設準備室		

2 開催回数

25 回（2 回／月 開催 ※第 1 水曜日および第 3 月曜日）

※令和 7 年度は 5 月に 3 回開催した。

3 令和 7 年度の実績

●「新病院建設基本計画（案）」について

- WG ヒアリングを基に作成した各部門計画について議論を行った。
- 物流 WG から提案された搬送設備について議論し、物流搬送計画に反映した。
- 駐車場整備計画（駐車台数、区画寸法等）について議論を行った。
- ヘリポートの設置について、使用目的、設置方法、設置費用、近隣への影響等について議論を行った。
- エレベーターの設置台数とエスカレーターの設置について議論を行った。
- 市場調査等の結果を踏まえて、新病院建設の総事業費について議論を行った。

● 設計施工事業者選定（公募型プロポーザル）公告書類について

- 公告書類（要求水準書、諸室諸元表等）について下記の議論を行った。
 - ・幹部諸室設置基準、救急部門や感染部門の広さ、階層構成の設計条件、廊下幅、災害対応室、当直室の広さ、職員休憩室の設置など

4 来年度の課題

令和 8 年度は、新病院建設事業の設計施工事業者選定を行い、契約の締結後から基本設計に着手するが、事業者との設計協議をスムーズに進めるため、新病院の運営面についての検討を院内の各 WG で行う。新病院で導入するユニバーサル外来の運営検討については特に重要となる。院内の各 WG での検討結果を踏まえて、本委員会で議論を行い、令和 13 年度の新病院開院に向け新病院建設事業を推進していく。

（文責 児島 章）

■内科専門研修管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司（診療参事兼人材育成センター長）	副委員長	阪本 宏志（診療参事兼循環器内科部長）
委員	児島 章（病院事業管理者兼院長）	委員	藤井 常宏（副院長）
委員	木村 哲夫（呼吸器内科部長）	委員	金井 友哉（消化器内科部長）
委員	河野 優（脳神経内科部長）	委員	高橋 康人（腎臓内科部長）
委員	廣津 貴夫（糖尿病・内分泌・血液内科副部長）	委員	伊藤 晴康（リウマチ・膠原病内科部長）
委員	青木 洋（事務部長）	委員（外部）	矢野 真吾（東京慈恵会医科大学附属病院）
委員（外部）	袴田 康弘（静岡県立総合病院）	委員（外部）	前田 正人（三島総合病院）
委員（外部）	山田 佳彦（国際医療福祉大学熱海病院）	事務局	人材育成センター

2 開催回数 1回

3 令和7年度の取組実績

（1）当院専攻医（後期研修医）の状況把握

- ・ 5年目医師1名

静岡県立総合病院での研修を1年延長とする。

- ・ 2年目医師1名

当院での研修を修了し、次年度は東京慈恵会医科大学で研修を行う。

（2）研修希望者の採用

申込者は0名であった。

4 令和8年度の課題

引き続き、内科専門研修の充実を図っていく。

（文責 笠井 健司）

■保育所運営協議会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会長	青木 洋（事務部長）	副会長	秋山 ゆかり（副院長兼看護部長）
会員	職員組合から選出	会員	利用者から選出
会員	高橋 克典（病院総務課長）	事務局	角入 あゆ美（病院総務課）

※令和7年度は、開催実績なし。

■外部評価医療事故調査委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	梶本 徹也（副院長兼総括部長兼医療安全対策室長）	委員	内科系医師（その都度指名）
委員	外科系医師（その都度指名）	委員	加藤 寛史（診療技術部長兼薬剤科長）
委員	中村 三千代（副看護部長）	委員	高橋 克典（病院総務課長）
委員	寺田 和子（医事課長）	委員	若本 奈緒美（専従リスクマネージャー）
委員	院外の医療の専門家（外部委員）	委員	院外の有識者（外部委員）※必要に応じて
委員	医療事故に係る医療行為を行った者、及び当該診療科部長		
事務局	石井 津与志（病院総務課）		

2 開催回数

案件により随時開催する。

3 令和7年度の実績

外部評価医療事故調査委員会は、医療行為に起因するとみられる予期せぬ死亡事案が発生した場合、医療法（昭和23年7月30日法律第205号）に則り、医療事故に関する臨床経過の把握、原因の究明、再発防止策の提言を行うことを目的として、令和7年2月に設置された。

令和7年度は、委員会を1回開催した。

4 令和8年度の課題

委員会の開催を必要とする医療事故が万が一発生した場合は、必要に応じて委員会を開催し、事実関係を把握したうえで速やかに医療事故調査報告書を作成する。

（文責 梶本 徹也）